

大晦日とお正月

【日本に伝わる伝統や風習の意味を知り、大事に考えてほしい】

平成最後の年30年がもうすぐ終わります。

今年最後の日 大晦日の夜には除夜の鐘が鳴ります。除夜の鐘はいくつ鳴るか知っていますか？108回ですね。108というのは煩惱の数だと言われます。煩惱とは、何かに腹を立てたり、誰かをねたんだり恨んだり、何かが欲しくてわがまま言ったり、そういう心です。そういう心は、心をイライラさせたり、悩ませたり、苦しめたりします。煩惱がなくなると心安らかに生きていけるのですが、人間はそういうわけにはいかないのです。人が生きるのは煩惱と闘うことなのかもしれません。108という数字は「四苦八苦」からきているという説もあるようです。

大晦日、深夜0時をまたいでつかれるこの鐘を静かに聞くのもよい時間の過ごし方かもしれませんね。

大晦日の次の1月1日からお正月です。

お正月は年神様という神様がやってくるといわれています。神様がやってくるから、おめでたいのです。

年神様は、初日の出と共に高い山から下って来ると言われています。ですから、とりわけ高い山から見ると初日の出を「ご来光」といって大切にしているのです。

ちなみに、年末大掃除をするのは神様を迎えるためです。

年神様は、それぞれの家一軒一軒にやってきます。日本には「八百万(やおよろず)の神」といって、たくさんの神様がいて信じられています。神様が道に迷わず自分の家にきてくださるようにと、目印として「門松やしめ飾り」を飾ります。

そして家の中には神様へのお供えとして鏡餅を飾ります。

年神様が家にいる期間を、松の内といいます。この地方では1月7日までとされています。年神様がいる内は、門松や鏡餅は飾っておくのが普通です。

松の内が終わると、門松や鏡餅をどんど焼きで燃やします。このどんど焼きの火で焼いたお餅を食べると1年間健康でいられると言われていました。

1月2日は「仕事始めの日」とされています。ですから、1年間の抱負や目標をかく書き初めも、1月2日に行うとされています。

年神様が家にいてくれる最後の日の朝は、1年間の無病息災を願って春の七草で「七草粥」を食べます。

このような風習や伝統には、過去に生きた人々の祈りや願いが詰まっています。それを大切にすることも現在に生きる私たちに託されていることなのかもしれません。

それでは皆さん、よいお年をお迎えください。